

2018年の年頭挨拶で安倍首相は、米軍の軍用機が頻繁に起こす普天間基地周辺の事故から国民の安全を守るためには、辺野古の基地を一刻も早く完成させ、移設したい。引き続き沖縄住民に寄り添って、丁寧に説明すると述べた。一方、強力な戦力を誇示しつつ北朝鮮の核ミサイルを止めさせようと躍起になる米国大統領に、わが首相は全面協力を表明した。日本国民の安全を守るというなら、沖縄住民は一体誰なのか。

最近届いた『伊江島通信』56号に、辺野古の基地建設阻止を訴えていた最中に車に轢かれて足を砕かれた平良悦美さんのインタビュー記事がある。悦美さんは足の骨がバリバリと砕けた瞬間「沖縄の人々をいらだたせているのは日米安保条約であり、それを容認している日本の政治が悪い。沖縄戦では足を怪我して、逃げることも出来なかった人々がいた」ことを思った最近、最高裁が住民の公開請求を受け官房機密費の大枠を公表するよう命じた。昨年度は13億円余りが支出された。』夫の平良修牧師は、報道関係者に報道関係者そうである。後日、父親に伴われ謝罪にきた加害者の青年に「人が大変な目に会っているのを見て、ほっておけない人になって欲しいよ」と諭した。「私達は人の命を奪う、人殺しのための基地を作ろうとしていることに反対しているんだよ。あんたも来なさい。」との声かけに彼が頷くと、悦美さんは彼が「大事な仲間」になったと喜んだ。妻の怪我について報道関係者からインタビューを受けた夫の平良修牧師は「大切な行動は、犠牲を伴うものです」と返答されたとのこと。

辺野古基地建設に反対の稲嶺現市長を追い落とすため、現政権は湯水のように金を注ぎ、住民分断を計っているそうである。「金で命は買えない。人類を守るのは軍備ではない。」今回の『伊江島通信』で、謝花悦子さんは強く訴える。